甲第 13 号証

日々の新聞

IWAKI BIWEEKLY REVIEW

第518号

2024年 9月30日 月曜日

小泉智勇さんのはなし

町がよくなって客を呼べる

小泉智勇（ともお）さんは、常磐地区のまちづくり団体、「じょうばん街工房21」の会長を務めている。湯本駅前再整備では、いわき市と話し合いを重ね、「湯本駅前にふさわしい開発」を考えてきた。しかしここに来て「一部の人だけで計画を進めている」と批判を受けている。小泉さんの率直な思いを聞いた。

じょうばん街工房のメンバーたちが出資してつくった、「ふらゆもり」についてさまざま言われているのですが、そもそもはいわき市から「受け皿になる株式会社をつくってほしい。その方がスムーズに行くから」と言われたのがきっかけでした。

最初は、いわき市から街工房に「湯本駅前で区画整理の手法で市街地再生整備をやる」という話がありました。それで「これまで湯本駅前を守ってきた人たちが、町が良くなるなら自分たちが撤退するしかない、と思うような再整備はしたくない。もっと店が良くなって客が来るようになり、稼げるようにしたい。これまで頑張ってきた人たちを守りながら再開発をしたい」と言いました。

しかし現実的には、補償金をもらって解体は出来るかもしれないけれども、もう一度建物を建てて店を継承していくことが出来るのだろうか。金銭的なこと、後継者のことなど、さまざまな問題をはらんでいる。それならば、みんなでテナントビルを建てる共同建て替えという方法もある、ということになりました。それで区画を、共同建て替えに賛同する地権者のエリアと個人で自主自立できる地権者のエリア、さらに駅前再開発交流エリアの三つに分けて道路でつなぐ計画になったわけです。

共同建て替えのための建物を造るとなると、その受け皿が必要になります。そのためには、不動産が得意な人、店舗が得意な人などノウハウを持っている人たちが、会社をつくって地権者をとりまとめ、小さな商店街にしなければなりません。「その旗振り役になる会社をつくってほしい」という思いが市にありました。市はアドバイスや補助金の交付などは出来るのですが、自ら共同店舗には関われないからです。

でも、わたしたち「じょうばん街工房21」は任意団体なので、資本も知識も権利も組み立てる知恵もなく、あるのは思いだけです。それでは店子さんや権利者が信用するはずがありません。しかし、この計画を成功させるにはだれかがやらなければなりません。そこで、街工房のメンバーなど有志がお金を出し合って「ふらゆもり」を立ち上げたわけです。

ただ市は「ふらゆもり」の役割を

兎渡路の家にどうぞ

2021年に豊間兎渡路に開設した研修センターです。主に視覚障害の方々が集う場として利用していますが、福祉、有機農業、子どもの居場所、動物福祉、脱原発、護憲、環境問題等に取り組むグループに無料で貸し出しています。

090−6178−8168（木村）

兎渡路の家
木村眼科クリニック研修センター

診療受付時間のお知らせ

平　日 午前　9:00〜11:30
　　午後 14:00〜16:00

土曜日 午前　9:00〜11:30
　　午後 14:00〜15:00

休診日：水曜日、木曜日、日曜日、祝日

※白内障手術は、約3カ月先のご予約となります。緊急手術が行われる場合、ご予約がない方の外来診療は受け入れできないため、あらかじめ電話連絡の上ご来院ください。ご了承ください。

木村眼科クリニック
日本眼科学会認定眼科専門医　院長：木村壹二郎
〒970-8026 平字下の町7-4 TEL 0246-24-3355

駅前共同店舗の建て替え、マネジメントをするだけ、とは思っていませんでした。できれば駅前だけではなく、温泉通り商店街の空き店舗、空き屋対策なども率先してやる団体が必要、と考えていて、「ふらゆもり」が先導・旗振り役になってさまざまなまちづくり団体が生まれてもらいたい。そして湯本の商店街の賑わいを取り戻してもらいたい、という思いがあったのです。

とはいっても正直な話、仕事をやりながらボランティアでまちづくりをやっている状態です。本当だったら専業にして事務局員を雇って事業計画などを立てられればいいのだけれども、収入も何もない状態なので、そこのステージには立てていないというのが現状です。そのため現時点では、その話を地権者の方々に出せる状況ではない、ということです。

共同店舗で一番大きいのは、民設民営なので市が絵を描けないということです。それで、共同店舗の建て替えと商店街と駅前交流拠点施設が密接に連携できる配置や機能を考える必要が出てきます。「共同店舗にはどういうお店の人が入ってくるのですか？　どういう機能を持たせるんですか？　それとぶつからないように駅前交流施設を考えなければいけないよね」――というようなことです。市はそれを「ふらゆもり」にしか頼めなかったわけです。でも「ふらゆもり」自体、きちんと体制が整っていないわけですから、結局はプロである「トコナツ歩兵団」に頼むしかない、というわけなんです。

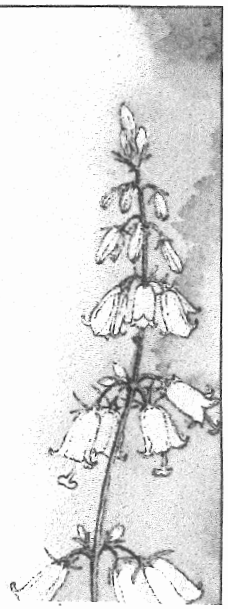
「トコナツ歩兵団」が湯本に関わったのは「フラ女将」のプロデュースからです。その後、いわき湯本温泉「フラのまち宣言」をサポートし、その動きがいわき市に移って、「フラシティいわき」のロゴ・デザインをしました。そうした流れもあって、いわき湯本温泉ブランド化作戦会議による「新・いわき湯本温泉　まちづくりビジョンブック」をまとめました。その中には交流施設の中の広場に足湯を造り、濡れてもいいような本を置く、というアイデアもあります。

「トコナツ」のアイデアのいいところは温泉図書館です。まだまだハードルは高いのだけれども、いま人気のスーパー銭湯では風呂だけでなく、入浴後にのんびり過ごせる空間と機能が充実していると来場者が多いようです。そうした憩いの場を公共でつくってくれたら、と思っています。

ただこれは、計画はあるけれども事業手法も決まっていないんです。「まちづくりビジョン」に描かれているのは三つの拠点をつくることによって街が回遊できるよね、ということなのですが、それは単にビジョンで打ち上げただけであって、現時点では、まちづくり団体が参入できるレベルではないし、今回の事業で進められるのは道路の整備と駅前交流施設と駅前広場です。いま、「やる」「やらない」でもめていますけれども、せいぜい温泉通りの道路の整備、御幸山の迂回路の歩道までで、ビジョンブックは二の次なんです。

交流施設と共同店舗と個人店のエリアだけは決まっているけれども、そこにだれが来るかは区画整理事業なので現時点では不透明です。ですから、これからは「ふらゆもり」のレベルを上げていかないと、と思っています。そうでないと、せっかく街のためにつくったフロントがぐちゃぐちゃになってしまう可能性もありますから…。

「ふらゆもり」が共同店舗のプロデュースができれば理想なのですが、計画までは「トコナツ歩兵団」にやってもらい、人を抱えて事業計画を立てて運営していくのは「ふらゆもり」ということになると思います。



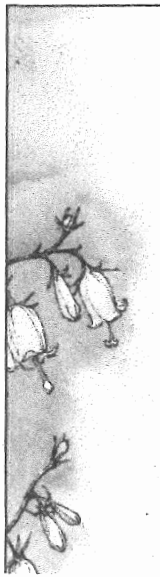
こころの随想

その100 山女日記

猛暑のため今年の夏は登山を控え、八月に文庫化された湊かなえの「残照の頂　続・山女日記」を読み、前作の「山女日記」を再読しました。

「山女日記」は、様々な思いを抱えた女性たちが、山を登り自分と向き合い、非日常的な体験や山の景色に心を動かされ、一筋の光を見出して日常に戻っていく姿が描かれていました。続編の「残照の頂」は、女性たちが抱える思いが後悔や未練などより深いものとなり、山を登りこれまでの人生を見つめ直し、山行中の思索や頂からの景色が彼女たちに肯定感を与え、行くべき道を示唆する再生の物語でした。

作家自身の登山体験が込められた小説を読了後、飯豊本山の頂から大日岳の彼方に沈む夕陽を眺め、心が癒され明日への勇気が得られた自分の登山経験を思い出し、秋の山に登りたくなりました。



ARATAME
一般財団法人
〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字安草3　TEL (0246) 28-1222　FAX (0246) 28-1224